

全 員 協 議 会 記 錄

令和7年11月4日(火) [2]
本会議休憩中
10時06分～11時11分
議場

[出席議員]

臨時座長：岡本議員

西田一平議員、今田議員、岡山議員、遠藤議員、花田議員、戸津川議員、
村木議員、森谷議員、大谷議員、沖田議員、足立議員、川上議員、柳楽議員、
串崎議員、小川議員、笹田議員、芦谷議員、佐々木議員、瀧谷議員、
西田清久議員、川神議員

[事務局] 下間局長、濱見次長、久保田議事係長、森井書記

議題

1 正副議長選挙前の所信表明会について

(1) 議長選挙所信表明者（届出順）

- ・ 瀧谷 幹雄 議員
- ・ 芦谷 英夫 議員
- ・ 森谷 公昭 議員

(2) 副議長選挙所信表明者（届出順）

- ・ 川上 幾雄 議員
- ・ 小川 稔宏 議員
- ・ 笹田 卓 議員

2 その他

(1) 正副議長選挙の注意事項について

(2) 本会議再開時間について

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

○下間局長

この全員協議会では、年長議員の芦谷議員が所信表明をされる予定となっている。また、その次の年長議員である川上議員も所信表明をされる予定である。このため、この全員協議会においては、その次の年長議員である岡本議員に臨時座長をお願いする。

[10 時 06 分 開議]

○岡本臨時座長

ただいまから本日 2 回目の全員協議会を始める。岡本正友である。この全員協議会の座長を務めるので、協力をよろしくお願ひする。

それでは、議題に入る。

1 正副議長選挙前の所信表明会について

(1) 議長選挙所信表明者（届出順）

- ・ 濵谷 幹雄 議員
- ・ 芦谷 英夫 議員
- ・ 森谷 公昭 議員

○岡本臨時座長

最初に、議長選挙の所信表明を行う。

議長選挙の所信表明者は、届出順に 20 番 濵谷議員、18 番 芦谷議員、8 番 森谷議員の 3 名である。

届出をされた方々は、椅子を用意しているので、前に出てお掛けいただきたい。

それでは、届出順に所信表明を行っていただく。所信表明は実施要領により、原則として 1 人 5 分以内となっている。全員が終わった後、各議員からの質問を行うこととする。

それでは、20 番 濵谷議員、壇上へ上がられたい。よろしくお願ひする。

○濵谷議員

濵谷幹雄である。20 年前、1 市 4 町村が合併した当時の浜田市の人口は 6 万 3,500 人であった。20 年経った今、人口は 4 万 8,000 人で、1 万 5,000 人の人口減少である。特に問題なのは、ここ 4 年間が圧倒的な人口減少に陥っており、4,000 人以上の人口減少である。これが一番の問題であると考える。

以前、日本創生会議が浜田市の将来の人口予測として、2060 年に 2 万人を割るという数字を出し、「消滅」という言葉を浜田市に対して使った。しかし、先ほど述べたように、今この人口減少が加速しており、10 年早い 2050 年に 2 万人を割るペースになっている。

人口が減るということは、20 年前の合併当時の経済規模に比べ、500 億円の個人

消費が減少するということである。そうなれば、多くの事業者や店の経営が成り立たなくなる、そういう危機的な状況を迎えている。

政治はあくまでも結果責任である。私たちは執行権、予算編成権を持っていないが、審査権と提案権という執行部に対する武器を持っている。この武器を手に、圧倒的な力で執行部に市民のための政策を実現させていく、そういう2年間の先頭リーダーとしての役目を私に与えていただくために、今日話をしている。

人口減少が起こると、まず今の浜田市議会の定数が多いという話が必ず出てくる。人口だけで比較すると、他市と比べてそうなるわけだが、そういう結果を招いた場合に、ただ単に議員の人数を減らすという形になれば、議会の力が弱体化することが必至である。それでなくても、浜田市は690平方キロメートルという東京23区を超える面積を有している。議員1人当たりの守備範囲は30平方キロメートルを超える。さらに広範囲の守備範囲となる。ただ単に人口が減るから議員を減らすのではなく、そういう事態を招いたときに議会の力を維持するためには、議員一人ひとりのパワーアップが圧倒的に必要である。議員の数が減っても提案力、審査力が落ちないために、ぜひ大谷翔平氏のような圧倒的なパワーアップ、この4年間の間に1.5倍から2倍の力を議員の皆さんに付けていただきたいと思う。

また、特別委員会がある。議会改革活性化特別委員会という名称を変更したいという声を聞いた。それも一つであると思う。

私は、浜田市の圧倒的なアドバンテージは浜田港であると考えている。全国1,700の自治体の中で、特定第三種漁港を持ち、特定重要港湾を2つ持っている自治体は浜田市を置いてほかにはない。圧倒的なアドバンテージを利用しない手はないと考えているので、各議員の理解を得られれば、浜田港振興特別委員会を設置したいと思っている。また、審査力を高めるために、もう一度行財政改革特別委員会も設置できないかと考えている。

4年ぶりに浜田市議会の5階にやってきた。そうすると、まだ扇風機が置いてある状態である。議員控室の環境整備、椅子やテーブルも市長室にあるような形に変更したい。

これから2年間、年々歳々輝かしい浜田市を取り戻せるように、議会の使命である市政発展と市民の幸福の実現に向け、リーダーとして皆とともに歩んでいきたいので、皆の絶大なる支援を瀧谷幹雄に賜るようお願いして、簡単ではあるが所信の一端をご披露した。

○岡本臨時座長

元の席にお戻りいただきたい。

続いて18番 芦谷英夫議員、壇上へ上がられたい。それでは、よろしくお願いする。

○芦谷議員

芦谷英夫である。こうしてここに立つと、新しい議員が6人も入られ、大変これから市議会は変わっていく、そんな感じもしている。ぜひ、新しい議員には大きな

期待をしたい。

言うまでもなく、市議会というのは二元代表制の一つである。したがって、市長とは違う判断で、その代わり、最後は市長と一緒に前に進む。ちょうど二本のレールの上を走る列車である。そのレールの間隔は、近すぎても遠すぎてもいけない。スピードも合わせなければいけない。そういう意味で、レールに乗った列車はしっかり市民の思いや浜田市の将来を積み込んで、全速力で進むものである。こうした二元代表制の一翼を担う議会にしたい。

今回の選挙を見ると、市長選挙では、浜田市の歩む姿が釈然としないまま選挙が終わり、結果として2,800票差で僅差であった。市議会議員選挙では、現職・元職含めて17人のうち、8人が票を伸ばし、9人が票を減らした。

もう1点、新人議員の多くは22人中15位まで入るということで、浜田に対する期待が市民に表れていると思っている。その代わり、今までの市議会について大変厳しい批判があると思っている。どこの世界でも新陳代謝や世代交代は必要である。それは肅々と進めるが、浜田市の当面の課題が整理され、これから歩むべき姿がきちんと示され、それを市民が反応して感動する、こういったことが必要である。議会としてしっかりと合意をつくり、まとめて発信をする。議会の最大限の合意を作る。こういったことが必要である。

そのためにも、私は合意づくりに向け、会派間を超えて、会派をまとめ、少数会派も含めてしっかりと話を聞き、兎にも角にも議会の合意づくり、これを進めたいと思っている。

議員の持つ政見や政策、その支持基盤や浜田市全体を抱え、4万8,000人の市民の総意を議会に反映させ、議会が自由活発な議論を行い、その後にあるべき姿をしっかりと示し、道筋をきちんとつくり、市政を進める、こういった立場で進める決意である。

重ねて言うが、何よりも全議員が参画した議会とし、議会の合意をつくる。それをきちんと市民に発信する。このことが何よりも必要である。そのためにも、議会構成などでそのことがかなえられる浜田市議会とすべく、議長として生涯を懸けた最大限の努力をすることを決意し、議員各位の支援をお願いする。

○岡本臨時座長

元の席にお戻りいただきたい。

続いて、8番 森谷議員、壇上へ上がられたい。それではよろしくお願ひする。

○森谷議員

朝まで書き換えていたので、これを読ませていただく。5分以上になっては困るので。

森谷である。私が浜田に戻ってきたのは、父から「親子は一緒に暮らすんだ」という、父のわがままな一言がきっかけであった。当時私は東京で税理士として30歳で独立し、5年目で売上1億円、浜田にビルをいくつか購入し、とても順調にやっていた。

地元に戻ってみた浜田の現実は、私の想像を超えていた。市役所は東京の区役所とは大違いで、知識も少なく、責任感も乏しく、公費を使ってサボっているように見えた。銀行も税理士会も同じである。私の事務所に「給料が高すぎる、名刺に社長と書くな」とか言われ、Uターンした若者を押さえ付ける空気はすごいものであった。

正しいことを言っても声は届かない。ならば市議会議員になって正すしかないと、39歳で出馬を決意し、そして57歳で当選した。ようやく市役所に物を言える立場になった。そう思った矢先、私は職員をいじめたとか、職員の自殺の原因を作ったとか、全く根拠のない中傷を受け、市長から公文書で注意された。その公文書をFacebookで 笹田議員がアップしてくれた。

さらに、YouTubeの表示が「森谷」だというだけで森谷が犯人だと決め付けられたこと也有った。ネットリテラシーが低く、そんな低レベルな議論が議会でなされていた。この浜田市は一体どうなっているのかと。

こうして私は市役所も議員も、間違いを指摘する者の牙を抜く、抜こうとする。このような現実と戦いながら、浜田市を変えたいという一心でここまで来た。この経験こそが私の原点である。

少なくとも浜田市議会は、間違っていることを間違っていると言える議会に変わらなければならない。

幾つか例を挙げる。第1に、飲酒運転隠蔽問題である。浜田市の幹部職員が飲酒運転をし、それを市長や幹部たちが隠したという事実がある。ところが 笹田議員は、市の説明を信じて、問題はなかったものとするというような発言をした。そう言わざるを得ない事情があったのだと思う。

私は実際に運転していた本人との会話を録音した音声を昨日議員全員に配った。その中には、隠蔽の実態を示す生々しい内容が含まれている。これを聞いてもなお、市の説明を信じるのか。関係するラーメン屋、運転した女性の名前まで伝えたにもかかわらず、危機意識を持つ議員はほとんどいなかつた。「聞き取りに行けば事実が分かる、事実が分かれば大事になる」ということか。これでは、行政を監視するという二元代表制の原則は成り立っていない。

2つ目。協働のまちづくり推進条例という重要な条例があるが、それとの矛盾がたくさんある。この条例には、「市民は自らを主役とし、市は必要な情報を正確に分かりやすく提供しなければならない」というようなことが書いてある。にもかかわらず、三浦市長は、市長が弁護士を通して、市民の三島さんに対して職員との接触を禁ずるという警告書を撤回もしないし、私の話を聞こうともしない。これは条例違反である。条例では市民が主役であると書いておきながら、意見を述べた市民を締め出す。議会は何もしていない。

3つ目。議員自身の規律の問題である。議長選に立候補している芦谷議員が、教育委員会に無断で入るところを目撃し、私は「職員ではないのだから、そういう行動は慎むべきだ」と注意した。すると芦谷議員は「通行権があるから問題ない」と

言われた。翌日に私が「注意の仕方が悪かった、すまない」と謝ったところ、「今までずっとやってきたから良いのだ、慣例だ」と問題がないように言わされた。一部の議員の規律に対する考え方方が根本的に欠けている。

そして4つ目、監査委員の人事の在り方。私は税理士としての経験を生かし、監査委員に立候補したいと言った。しかし、議長候補の瀧谷議員は「あなたが監査委員になったら大変なことになる」と言い、副議長候補の川上幾雄議員は「それは無理だ」と言わされた。適材適所ではなく、会派や年功序列が優先されている。1期2期の議員が先輩の後でしか役に就けない。それは市民のための議会ではなく、議員のための議会である。

これらの問題に毅然と立ち向かえる議長、その姿勢を持っているのは私、森谷だけである。森谷こそが議長にふさわしいと私は信じている。よろしくお願ひする。

○岡本臨時座長

元の席にお戻りいただきたい。

以上で、議長選挙のための所信表明が終了した。ただいま所信表明された3名に対し、議長選挙の所信表明をされていない議員は質問をすることができる。質問があれば、挙手をお願いする。

○足立議員

3人の皆さんに少し話を聞きたいが、一番最初に発言した瀧谷議員は若干触れていたけれども、浜田市の人口は確かに合併時6万3,000人から現在4万7,700人で、特に問題なのが出生数で、人口減少に大きく影響を及ぼしている出生数が、この上半期で105人という数字である。そうした中で執行部はそれなりの政策、事業展開をされているが、議会としてその執行部に対してどのように向き合うのか、人口減少が加速する中での議会の在り方というところをもう少し深掘りして教えていただきたい。これが1点。

2点目、これも瀧谷議員が触れていたが、人口減少する中での議員定数の減というところである。確かに人口減少するのだから議員定数を削減することは、一理あるかと思うが、それ以外の他のいろいろな要因を含めた議員定数というものもあるうかと思う。確かに、出雲市は人口17万で、議員定数30人である。先日話題であった伊東市も、議員定数は20人だったと思う。そうしたことを考えると、今の浜田市の4万7,000人に対する議員定数22人というのは、私も個人的には多いと感じているが、この議員定数の在り方について3人に聞きたい。

それから3点目、最後に、先ほど森谷議員が言っていた不祥事、要はいろいろな不祥事に対する議会の在り方、議会としての方向性、議会がどのように向かって、その最終的な着地点はどのようにしていくのか、議会としての皆の総意というところもあるうかと思うが、その辺の考えを3人に聞きたい。

○岡本臨時座長

3点にわたって質問があった。一人ずつ呼ぶので壇上でお願ひする。瀧谷議員。

○瀧谷議員

まず1点目的人口減少対策について答える。全国1,700の自治体の中では、全ての自治体が少子高齢化に苦しんでいるが、全ての自治体が人口減少しているわけではない。きちんと人口を増加させている自治体がある。それは、首長の強いリーダーシップの下に政策を実行し、都市計画がきちんとなされている自治体であると私は考えている。

例えば千葉県流山市は、10年間で4万人だったと思うが人口が増えている。明らかに市長のリーダーシップの下に、子育て支援を充実している自治体である。全国の自治体のパターン的には、人口が増えている自治体というのは、大都市圏に近い自治体の住宅地が増えるとか、大企業が進出してくるとか、そういうある程度恵まれた環境にある自治体が多いが、首長の意識において、圧倒的な子育て支援を実施することで、都市間競争に勝ちながら子育て世帯をその町に流入させる、そういうことで成功している自治体が、人口減少に歯止めを掛けたり、急激な人口減少ではなくて人口を前年対比で維持を確保している。そういう自治体は必ず子育て支援を充実させている。

例えば兵庫県明石市は、紙おむつを配るというようなことから始まって、シングルの親が養育費を離婚された相手方から裁判で獲得しても、相手方も生活が苦しいため払い込まれないときに、自治体がそのお金を立て替え、なおかつその分の請求活動も自治体がするという前向きな自治体がある。

先ほど述べた千葉県流山市等は、ただ子育て祝い金などの政策をするだけでなく、生活に密着して、駅の前に子どもを連れて来ればそこから保育園に市が送迎するというような、生活に密着した形での子育て支援をしている自治体もある。

おそらく、私のいなかつた4年間に、議員の皆はそういった流山市であるとか明石市に視察に行き、きちんと勉強されていることと思う。

私は、今の浜田市においては、保育料の無料化や学校給食の無料化からスタートしながら、生活しやすい町を目指すべきだと考える。今、街の中で、益田市の方が商店が充実しているとか、江津市の方が工業団地が活性化しているということで、都市間競争において浜田市が埋没するのではないかという声をよく市民から聞く。やはりそういう現在の立ち位置から脱却するためには、まず子育て支援を中心とした人口減少対策、先ほど言われたように、今出生数が200人ということで、合併当時は400人を超えていた。それが、子育てがしにくい、コロナ禍の影響もあるとは思うが、子育てするのに非常に環境が整っていないということが一番の原因であろうと私は考えている。

2番目の定数の在り方である。先ほど少し述べたけれども、やはり人口が減少しているから、それに見合った議員の定数を見直すべきだという考え方には私はくみしない。それであればなお一層、浜田市の衰退は加速すると思っている。なぜなら、議会における提案力と審査力が低下するからである。

地方自治体というのは大統領制であり、執行部、市長部局が圧倒的な力を持っている。先ほど述べた予算編成権と執行権があるのは、アメリカ大統領のような市長

部局である。議員はあくまでも提案するか審査するか、議案提案されている議案を修正をしたり、ささやかな抵抗をするぐらいであり、きちんとそれに対応するには、政策討論会であるとか、委員会、会派それぞれで議論し、本当にしなければならない政策を次年度予算に組み込んでもらう、そういう形にするためには、やはり議会が強くならなければならない。

先ほど述べたが、議員一人ひとりがパワーアップしなければ、これはもうどうにもならない。だから、この4年間、圧倒的な研さんを積んでもらうことが必要である。情報量、今はタブレットで、日本中の自治体の情報が瞬時に手に入る時代である。そういった中で、浜田市のこの4万8,000人の人口の中で何ができるか、年間100億円の予算をいかに効率よく使うかというのは、議員にかかっている。だから、私は安易な形での定数削減にはくみしないし、減らすのであれば「これだけ減らしても大丈夫だ」という覚悟、各議員の圧倒的な勤勉な形での実力アップが必要であると考える。

3番目の行政の不祥事についてどう向き合うかということについてである。私は、この問題は既に解決しなければならないと考えている。今回同じく議長候補に立候補されている議員が島根県知事の選挙にも立候補された。その中でNHKという公共放送の中で政見放送をされた。それは「前市長の不祥事をぶつ壊す」というような党名ではなかったか、ちょっと曖昧だがそういう記憶を持っている。

そうしたとき、私の同級生の友人が松江に住んでいるが、「浜田はどういうまちなんだ」という電話がかかってきた。やはりそういうことに対してきちんと対応すべきではないか。私はもうこの問題にけりをつけるべきではないかと思っている。もう一度きちんと執行部から謝罪を受け、それで終わったことにしなければ前に進まないのではないかと考えている。これが私の今の現状の考え方である。足立議員の質問にきちんとした回答になっていたかどうか分からないが、今の現時点での私の回答とする。

○岡本臨時座長

元の席にお戻りいただきたい。芦谷議員、お願いする。

○芦谷議員

今後の浜田市政の在り様は、やはりしっかりと目標を持って、そのためにも市長の方針に対して、議会は異を唱え、必要な修正をし、そこは最後は二元代表制で一つになって市政を前に進める、こうした市民にも分かりやすい、市民が安心できる、こういったことにしたいと思っている。

2点目の議員定数については、浜田市の市域が広いということもあるし、必ずしも議員定数を減らせば良いというものではなく、しっかりと近隣自治体や類似自治体と比べながら、浜田市のあるべき定数を検討する必要がある。

3点目に、職員の不祥事に関連した問題だが、これについてはそのとき処分されており、きちんとルールに則ってされたものであるので、事後はそれで了とする必要がある。いつまでもこういった問題について引っ張って議論する必要はないと思

っている。

○岡本臨時座長

元の席にお戻りいただきたい。森谷議員、壇上へ上がられたい。どうぞ。

○森谷議員

1つ目が人口減少、2番目が議員定数、3番目が不正というような内容だったと思う。

人口減少については、人口が減ることが問題ではない。雨が降ることが問題ではなく、洪水が問題なわけである。人口が減ったら何がどうなるかというところを、世の中はあまり具体的に議論していない。例えば、子どもの声が聞こえなくなるとか、そういう話で先に進んだりしているが、そうではない。

浜田の商圈、経済の大きさを示すGDP等があるが3,000億円である。これは30年前も3,000億円である。だから経済の規模は全然変わっていない。30年間で人口は30%減少したということは、一人ひとりの元気・力が3割アップしているということである。だから、税収は6割アップである。1人の力が大きくなっているということを喜ぶべきではないか。

例えば人口減少、30年前に那賀郡と合わせて6、7万人いた。それが今5万人を切るかどうかというところになったとして、ほかを見ていただきたい。例えば2万数千人の江津市が潰れているか。それなりにやっているではないか。川本町は5,000人ぐらいだ。私は川本小学校出身だが。潰れていないではないか。人口が減ったら大変になるというのは、宗教のようなものである。大変にならないのである、ということを考えてほしい。本当はなるかもしれないが、具体的に考えてほしい。

それから、議員定数の問題。これは議員の定数うんぬんよりも、議会事務局の力を強化すべきである。議員というのは、専門がいろいろで、退職して年金をもらっているような人たちが入ったりする。専門分野もぐちゃぐちゃだし、30代の人が入ったら「議会って何だ」という人もいる。それでいろいろな人が入れ替わり立ち替わりする。議員に期待しても仕方ない。30歳で当選して60歳まで給料は1円も変わらない。こういうところに喜んで進んで、まともな人間ばかりが入るかということである。

議会事務局に調べたり調査したりする人を1人2人増やせば良い。1,000万円ぐらいで。そしたら議員なんて半分でも良い。議員は今500万、600万ぐらいか。私が辞めているうちにどんどん値上がりしてきたが、そう思う。こちらの専門性のある秘書のような人を皆の秘書として増やす、AIを使ってもらうということが大切だと思う。

基本、執行部である市役所と対決するには、議員の数は多ければ多いほど良い。と言っても、どんな人が入ってくるか分からないから、考える頭脳の部分は議会事務局を強化することである。私たちは何か見つけるとか、行動するとか、そういうことが役割で良いのではないか。

それから不正である。市の職員も飲酒運転を疑われている人はいない。課長は私

の飲み友達だったが、浜田から消えて大阪に行ったりして消えている。市の職員も誰も会っていない。かわいそうではないか。飲酒運転が見つかったときに、課長ごときが隠蔽できると思うか。思わないだろう。その課長のせいではない。周りの誰かが仕組んだのである。そういうことができるということは、談合だってできる。飲酒運転の隠蔽ができるなら、それが問題だと言っているのである。

「泣いて馬謖を切る」という言葉がある。有能な人材でも失敗したら、ルールに従って、昔の話でいうと首を落とす、ということになる。それが問題だと思っている。

先ほどの人口減少に戻って話をすると、スクールバスは中学生までである。だが、中学3年生の翌年は高校1年生である。やはりスクールバスに乗せてあげても良いわけであるが、家の近くから乗ることができない。中学校で皆下りてバスは空っぽになる。高校とまでは言わないが、公共交通の拠点となるJR浜田駅だと、どこかの大きなバス停だと、そこまで行ってあげても良いと思う。

それからもう一つ、休む人が多い。不登校とか入院とか、授業に出られない、理解ができなかつたとかいう人もいると思う。そうするとその人たちのために、授業を録画してアップしておけば良い。授業が退屈な人もいる。頭の良い生徒は2年生であっても、3年生4年生の授業をどんどん聞けば、それだけ宝物になる。そのように工夫することが大切である。

それから保育料については、保育園に預ければ補助が保育園に出て、浜田市では、6年間で650万円ぐらいである。だが、家で面倒を見たら1円も出ない。共通の補助金は除く。子どもが1人いれば月平均10万円、2人いれば月20万円、これだけで随分違うのではないか。子育てしやすくなると思う。結婚している家庭の子どもは毎年増えている。結婚できない、結婚する家庭が少ないのである。結婚できるようにするには収入が問題である。どうせ保育園には払わなければいけないのだったら、家庭に払えば良いのではないか。その人が保育園に子どもを預ければ同じお金が必要だから。ということで一個一個、できることを真剣に考えて進めることが必要だと思っている。

○岡本臨時座長

元の席にお戻りいただきたい。

以上で質問を終了したい。所信表明者は議席にお戻りいただきたい。

(2) 副議長選挙所信表明者（届出順）

- ・ 川上 積雄 議員
- ・ 小川 稔宏 議員
- ・ 笹田 阜 議員

続いて、副議長選挙の所信表明を行う。

副議長選挙の所信表明者は、届出順に12番 川上積雄議員、15番 小川議員、16番 笹田議員の3名である。

届出された方々は、椅子を用意しているので、前に出て椅子にお掛けいただけます。

それでは、届出順に所信表明を行っていただきます。所信表明は実施要領により、原則として1人5分以内となっている。全員が終わった後、各議員からの質問を行うこととする。

それでは、12番川上幾雄議員、壇上へ上がられたい。よろしくお願ひする。

○川上議員

川上幾雄である。浜田市議会、副議長立候補に当たり、所信の一端を述べさせていただきます。

まず、私は3期目であるが、議長・副議長の多選を疑問視するため、本日立候補した。

私はこれまで、「お答えします」として議員活動を進めてきた。今後、副議長としての任をお預かりすることになったら、市民の負託に応える議会のため、議長を補佐して、これまで以上の働きをすべく肝に銘じていく。

さて、私たち議員は市民から何を負託され、求められているか。私はその負託、求められているのは、安心して暮らせる社会、公正で信頼できる議会と行政、暮らしやすい環境、参加できる機会、将来への希望、この5点であろうと考えている。

そして、浜田市の大きな課題である少子高齢化対策は、この5点の解決がかぎになるものと思う。この5点について、今後議会で対応すべき事柄を説明する。

まず、安心して暮らせる社会についてである。医療・福祉・教育などの現状に目を向け、安定への対応がなされているか疑問を持ち、市政を正すとともに、必要な提案を行う必要がある。また、高齢者や子ども、障がいのある人など、誰もが支え合っていける環境になっているかどうかも同様である。安心は市民の最も基本的な願いであろうと思っている。

続いて、公正で信頼できる議会と行政では、不正や偏りのない透明で説明責任のある議会と行政となるべきである。議会、行政とも、「あったともなかつとも言えない」など、不透明な答弁はるべきではない。また、税金の使い道は、まず市民のために、行政範囲を超えての活用には「ノー」と言える議会となるべきである。この信頼こそが市民と議会をつなぐ土台である。

そして3つ目、暮らしやすい環境。これこそ市民が望んでいるものだろう。交通の便、ライフライン、買い物や医療、災害に強く環境にも優しいまち、このようなまちだろうか。樹木が生い茂り、薄暗く、路肩が見えないような道路、これらは論外である。このようなことにこそ、市民の負託に応える議会として目を向けるべきである。暮らしやすさには快適さと持続可能性が重要と考えている。

また、参加できる議会について、議会の方向性は間違っていないものと思う。参加は民主主義の根幹と言え、市民が主役となれる場を議会としても今以上築き進めるべきである。

最後の将来への希望についてである。子どもたちが夢を持てる教育、社会環境は

大切である。教育環境の改善は、議会として調査し必要な措置を求めるべきである。また、地域経済を活性化し、世代を超えて住み続けることができるまちをつくり上げることは、浜田市として喫緊の課題であり、議会・行政ともに理解しており、課題解決は今後の市民、行政、議会の働きにかかっている。希望は社会を前に進める原動力であり、議会はこれがかなえられるように後押しする立場であることは明確である。

いろいろ述べたが、今の議会は市民の負託として多くのことが求められている。この多くのことに対して力を尽くす議会となるべく、議長とともに働きたいと私は思っている。この思いをくみ取っていただき、川上幾雄をぜひともお選びいただくようお願いする。

以上、私の所信とする。ぜひともよろしくお願ひする。

○岡本臨時座長

元の席にお戻りいただきたい。

続いて 15 番、小川稔宏議員、壇上へ上がられたい。それでは、よろしくお願ひする。

○小川議員

15 番議席、市民クラブの小川稔宏である。

副議長立候補に当たり、新任される議長の補佐役として議会運営を進めていくという立場に立って、私自身重要なと思う点について 3 点に絞って所信を述べたい。

まず 1 点目は、正副議長の人選についての考え方である。正副議長人事は、任期の問題をめぐり、過去 8 年間、大変議会の中でも紛糾してきたという経緯がある。それぞれの考え方はあるが、議会として一定程度整理をし、ルール化を図る必要があると考えている。

地方自治法では、議長及び副議長の任期は議員任期となっている。つまり 4 年ということである。しかし、全国市議会議長会の毎年行われている実態調査があるが、この中でも議長任期についての申合せあるいは慣行の有無について調べている。全国で 815 の市があるが、この中で申合せ・慣行があるのは 650 市のうちの約 8 割でそういったことが行われているということである。

そして、申合せ・慣行による議長任期が決まっている市においては、その任期が 1 年もしくは 2 年という議会が全体の 98.3% である。したがって、任期 4 年というように申合せ・慣行になっているところは、わずか全国で 11 市の 1.7% というのが実態である。

今回の正副議長の人選においては、「2 年で変わる」ということ、それと「連續は控える」という意見が様々なところで出されており、共通認識になりつつあると私自身も認識している。この間の経緯や全国的な流れを踏まえて、このことをぜひとも議会の申合せ事項とすべきだと考えている。

価値観が多様化する中で、二元代表制を機能させ、議会全体の意見集約と合意形成を基本とした議会運営を行うためにも、もう一つは、正副議長が同一会派に偏る

ことのないように、バランスを重視して検討すべきだと考えている。そして、その他の重要な案件については、会派代表者会議を開催して検討すべきだと考えている。

2つ目は、議会改革についてである。浜田市議会は一定の評価を受け、成果も上げてきているが、一方では議員の負担が大変課題になっており、本来の議員活動ができていないという声も聞いている。市民福祉に寄与するという観点から、これまで行ってきた議会改革の項目について検証し、その中で効果の少ないものについてはきちんと整理をすべきだと考えている。それと併せて、傍聴席のバリアフリー化にも取り組みたい。

3点目は、議会改革とも関連するが、ハラスメント対策に本腰を入れたいと考えている。議会の政策立案機能の充実を図るためにも、議会事務局と議会との健全な関係と連携協力により、文字どおりチーム議会としての活動ができる環境整備が必要だと考えている。

そのためにも、長年続いてきた議長団への朝のコーヒーや昼の弁当、お茶、おしごりの運搬、こういったことはやめるべきだと考えている。これは本来、議会事務局の仕事ではなくハラスメントであるし、議会改革の課題でもあると考えている。議員の対等平等な扱いを図り、議長団だけが特別扱いされるような特権的な部分は見直す必要があると考えている。あらゆるハラスメントに対して毅然と対処していくためにも、議員自らが襟を正さなくてはならないと考えている。

以上3点について述べたが、議員各位のご理解とご協力を願いして、私の決意とする。

○岡本臨時座長

元の席にお戻りいただきたい。

続いて16番 笹田議員、壇上へ上がられたい。それでは、よろしくお願ひする。

○笹田議員

笹田卓である。

このたび、市議会議員選挙で当選された各議員に心よりお祝いを申し上げる。厳しい選挙戦を経て市民の信託を得られたことに深く敬意を表する。

私はこれまで4期16年、「市民から目線」を掲げて市政に取り組み、直近4年間は議長として議会運営に携わってきた。その間、議員の皆とともに、市民との対話を重視し、改革を前に進める議会を目指して取り組んできた。

議会だよりの刷新、はまだ市民一日議会の開催など、議会全体で知恵を出し合い、行動してきた成果として、2024年には、早稲田大学デモクラシー創造研究所による議会改革度調査で、浜田市議会が全国2位の評価を受けた。これは議員一人ひとりの努力の結晶であり、全員で築き上げてきた誇るべき成果である。この成果を次のステージへとつなげ、浜田市議会を更に発展させることを目指したい。

議長と皆と連携して、副議長として取り組みたいことは、まず1つ目に、議会運営の安定と活性化である。副議長として議長をしっかりと支えつつ、全議員が安心して意見を交わし、互いを尊重し合える環境づくりを目指す。

また、各常任委員会で行っている政策提言を、今後は実行・検証し、市民へ還元する仕組みへと発展させることで、議会全体で課題解決に皆と取り組んでいきたいと考えている。

そして、個人一般質問で出された課題や提案も議会全体で共有し、所管事務調査として掘り下げ、議会全体の課題として取り上げる仕組みづくりを構築していきたい。更に、定例会議後に行う振り返りや課題共有を重ね、より実効性のある議会運営を目指して行く。

2つ目に、ハラスメント防止の徹底と、誰もが働きやすい環境づくりである。これまで継続してきた年1回のハラスメント研修を更に発展させ、今後はハラスメント条例を制定した上で、条例提案のスキームを議会内に構築していきたいと考えている。皆と議会内外の人権意識を高め、お互いを尊重し合う議会文化の定着を目指したい。

3つ目に、市民との対話と発信の強化である。議会だよりの刷新や、はまだ市民一日議会など、市民と議会をつなぐ取組を進めてきた。今後も、若い世代との交流も積極的に行い、市民が政治をより身近に感じられる環境づくりを目指す。皆とともに、議会の広報広聴活動を支え、市民の声が議会に届きやすい仕組みづくりを目指したいと考えている。

最後に、浜田市議会基本条例にはこう記されている。「浜田市議会議員は、石見人としての誇りと高い見識を備え、全国の地方議会の模範となる議会改革を掲げて、絶えず精進し、市民が安全で安心して幸せに暮らすことができるよう、最大限の努力をしなければならない」とある。

この理念を胸に、これから約4年間、私は副議長として議長を支え、議員皆の意見をつなぎ、議会全体が一丸となって前進できる議会を目指す。対立ではなく協働によって議会が成長していく、そのための潤滑油となることを目指す。市民に必要とされ、信頼される浜田市議会をともに築いていくため、副議長としての責任を果たす決意をここに申し上げる。皆のご理解とご協力を願う。以上で所信表明を終わる。

○岡本臨時座長

元の席にお戻りいただきたい。

以上で、副議長選挙のための所信表明が終了した。ただいま所信表明された3名に対し、副議長選挙の所信表明をされていない議員は質問をすることができる。質問があれば、挙手をお願いする。

○森谷議員

任期とか期数とか、そういう話になった。小川議員からも。1期4年、委員会などが2年で変わるので議長だけが4年というのも、確かに、ちょっと長いのではないかという気はしている。

そうは言っても、期数とか役職経験とか、そういうことを重視するという風潮がある。

先ほど不思議だったのは、濵谷議員が4期目か5期目、そして岡本議員が5期目、川上議員が3期目である。同じ会派であるが、どうして一番期数の多い岡本議員が何にもならないのかと不思議である。

それを、全ての委員会等の役員に対して単純に当てはめれば良いだけではないか。ところが、任期とか期数とかがあって、私事だが、私は税理士を40年近くやっており、自治体監査も2回も講習を受けている。私がいくら「監査をやらせてくれ」と言っても、一対その他で私は監査に落ちる、確実に。

そこで、例えばこちらの議員も専門があると思う。例えば薬だったら川神議員、教育だったら大谷議員、土木だったら川上議員、野球や漁業だったら笹田議員といったように専門性があるので、その人の専門性と関係があるところは、そこに当てはめた後で残りを考えるべきだと思っている。

私は議員になってから10日間しか経っていないが、4億円の埋蔵金を見つけてきた。皆は、そういう期数とか、もともとの職業的な能力とかということとの関係をどのように考えられるか聞きたい。会派の規模が大きいものが能力を無視して良いポストを取ることと、能力を重視する、そのバランス、その辺の考え方をそれぞれの方に聞きたい。

○岡本臨時座長

それでは、順番にお願いをする。川上議員、どうぞ。

○川上議員

私は先ほど申しましたとおり、議員、特に議長・副議長について、多選では議会として活性化がなされていないと考えているので、それについては避けるべきだという形で、3期目ではあるが立候補した。

確かに私たちの会派においては、私以上の期数の方がいる。しかし、私は年齢も一番上であり、社会経験等については必ず私の方が上のはずである。そこも含めて、やはり先ほど森谷議員が言わされたように、適材適所ということは考えなければならない。

あと、会派、能力等のバランスは非常に重要な部分だと思う。これを誰がどのように扱うかということは、議員の皆であり、皆がどう考えるかということである。「6期やったから次は議長だ」とか、「7期やったから議長はしないから良い」ということはない。その期間の間に何をしたかである。何を成したか、どのような成果をつくったか、これこそ大事になる。

1期の方でも、これまでの社会の中でたくさんの経験を積み、多くの成果を出された方は、その部分に対しては決して引けを取るはずはない。これをどう皆が扱うことである。

○岡本臨時座長

元の席にお戻りいただきたい。

小川稔宏議員、壇上へお願いする。

○小川議員

森谷議員の質問に対してだが、浜田市議会はこの間、会派制をとってきてている。全国的に見ると会派制を導入していない議会もある。県内にもあると聞いているが、そういう中で4年ごとに新しい体制の中で議長、副議長をどのように決めるか、それともう一つは先ほど触れられていた議会選出監査の関係、こういった人事をどのように決めていくかといったときに、どうしても会派制をとっている以上は、会派の中で相談をしていかざるを得ないということで、それはもちろん経験年数もその中には勘案されるし、それぞれの特性もあると思う。

いろいろな人生経験や仕事からの経験も踏まえて、その中でいかにバランスよく、全体22人の定数に対して一番ふさわしい人は誰なのか、これを決めるときは非常に大変な作業だと思う。

だから、会派制という市議会とすればどうしても会派の中での意向ということで、本来だったらおそらく一番多い第1会派から議長が出て、第2会派から副議長が出るのがふさわしいのかなという感じもするが、そこは会派間での調整が当然必要になると思う。

だから、そういう中で決めざるを得ないという意味では、それぞれの会派の中で「こういう候補はどうだろうか」ということを出し合って、その中で決定していくのがふさわしいということで、今回も正副議長については3人ずつ候補が出て選挙で決めるわけだが、そういうことをしながら、やはり健全な形での議長・副議長の選出ということが必要だと思っている。

もちろん経験や期数についても当然その一部としては検討材料としてはあると思うが、全てに関して、やはり適材適所ということを皆の総意によって決めていける、その一番民主的な方法が今の現状だとすれば、それを踏襲していかざるを得ないとというのが私の考え方である。

○岡本臨時座長

元の席にお戻りいただきたい。

笹田議員、壇上へお願いする。

○笹田議員

私の考えは、本来はやはり4年間任期があるので、しっかり仕事すべきかなと個人的に思っている。正に適材適所で、おっしゃるとおりだと思う。議長も本来なら本当にやる気がある方が立候補して、ここで所信を述べて、皆で決めるというのが本当に正しいやり方ではないかと思う。

ただそれができないという現状があるが、先ほど言われたように会派制を敷いている以上は、会派の相談もすごく大事だし、皆との協調も大事である。その上で、今こういった形で議長選、副議長選が行われているのではないかと個人的には考えている。

ただ委員会においては、私も全く同じ考え方で、適材適所、本当に能力の高い方がその委員会を引っ張って行って、やはりその議会のため、市民のために働くことが望ましい姿かなと考えている。

○岡本臨時座長

元の席にお戻りいただきたい。

以上で質問を終えたい。所信表明者は議席にお戻りいただきたい。

以上で議題1を終了する。

2 その他

(1) 正副議長選挙の注意事項について

(2) 本会議再開時間について

○岡本臨時座長

2点について、事務局から説明をお願いする。事務局長。

○下間局長

1点目である。正副議長選挙の注意事項についてである。本会議再開後、直ちに議長選挙に移るので注意事項をお知らせする。

まず、白票は無効で、法定得票数は有効投票数の4分の1以上である。

次に、開票立会人については先ほど申し上げたが、議長選挙については3番岡山議員、4番遠藤議員、副議長選挙においては5番花田議員、6番戸津川議員に立会いをお願いする。こちらの前の方に出てきていただき、開票の立会いをお願いする。

2点目である。本会議の再開時間である。本会議を10分後、約11時20分からでも皆大丈夫か。時間があまりないが、11時20分から本会議を再開するので、よろしくお願いする。

○岡本臨時座長

皆よろしいか。

(「よし」という声あり)

それでは、11時20分から本会議を再開するので、よろしくお願いする。

以上で全員協議会を閉会する。

[11時11分 閉議]

浜田市議会全員協議会規程第6条の規定により、ここに全員協議会記録を作成する。

臨時座長 岡本正友